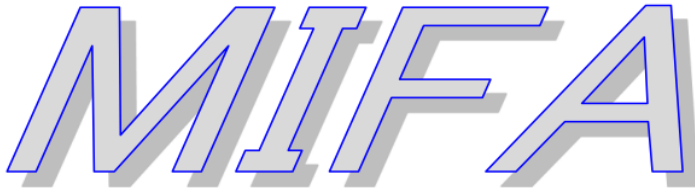


発行日：2025 年 11 月 21 日

目 次

ブラッシュアップ講座	1
前会長 大和田さんを偲んで	2
日本での思い出	4
日本語能力試験 合格おめでとうございます！	5
日本語能力試験とは	6
MIC 主催の日本語発表会、18 名が堂々発表	6
役員会便り	7
状況表	8
今後の予定	8

ま い ふ あ



No.156 2025年11月発行
まちだ地域国際交流協会
Machida International
Friendship Association
ボランティア団体/会長 黄川田 南
<http://mifa-machida.info/>

ブラッシュアップ講座 ～ 支援方法を共有 ～



関東地方に梅雨明けが発表された翌日の7月19日（土）、町田市せりがや会館4階の第一会議室にて「ブラッシュアップ講座」が開催されました。猛暑の中、23名の支援者が集まり、日本語学習支援活動の質向上を目的としたグループディスカッションが行われました。

今回の講座は、講義形式ではなく、支援者同士がテーマに沿って意見交換を行うスタイルで実施されました。冒頭では語学部長の揚石久子さんが挨拶に立ち、「今日は話し合うテーマを予め決めています、それ以外にも気になることがあれば、時間の許す限り話し合ってください。クラスや年代を越えて交流できる貴重な機会ですので、ぜひ顔と名前を覚えて、今後のイベントでも声をかけ合ってください」と呼びかけました。

参加者は4つのグループに分かれ、それぞれ「会話学習」「初心者への文字の教え方」「助詞の使い方・教え方」「書き言葉と話し言葉」のテーマで議論を展開しました。各グループには語学部の進行役が付き、円滑な進行をサポートしました。自己紹介や支援方法の共有を通じて、約1時間にわたり活発な意見交換が行われました。

講座の締めくくりには、各グループの代表者が5分間ずつ成果を発表。参加者からは「支援者同士の交流が深まり、今後の活動に役立つヒントを得られた」との声も聞かれました。今回の講座は、支援者間のネットワーク強化と情報共有の場として有意義なものとなりました。企画・運営を担った語学部の皆さん、心より感謝申し上げます。

（広報部 濱田敏裕）

前会長 大和田さんを偲んで

MIFA の運営に長年ご尽力くださった前会長の大和田昭文さんが 7 月 12 日に逝去されました。大和田さんと共に活動を重ねてこられた渡辺紀子さん、早田紀子さんのお二人から追悼文を寄稿していただきました。

心からの感謝を込めて

顧問 渡辺 紀子

7 月下旬に奥さまからのお電話で大和田さんがこの 7 月 12 日にお亡くなりになられたことを知り、あまりに思いがけない突然のことで、驚き信じられず言葉ありませんでした。大和田さんは今年も 5 月の MIFA 総会にご出席なさるということでしたが、お見えにならなかったのも、総会から帰宅してお電話しましたら、「庭で転んで医者に行ったら、脳梗塞の疑いがあると言われ、これから病院に行く」ということでした。その時、大和田さんご本人とお話ししていますし、ふだんとお変わりないお声でした。その後連絡がなく心配しておりましたが、お変わりなくお過ごしと聞いていましたところへ、奥さまからの突然のお知らせでした。

大和田さんは 2009 年に MIFA 会長に就任され、私は翌年の 2010 年から副会長を務めることになり、2020 年 3 月までの 10 年余、会長・副会長として共に活動してまいりました。その間に大和田さんを中心に組み組んだ活動が数々あります。

2009 年に東京都が都在住の外国人支援事業に対して助成金の交付を開始しました。大和田さんはこのことを知り、積極的に応募を考え、検討を重ね役員会の承認を得て応募することになりました。大和田会長とご一緒に都庁に何度か行き、担当者に MIFA の活動についてお話し、その結果、助成金をいただけることになりました。助成金は MIFA が今までもずっと取り組んで好評を得てきた「日本語ボランティア養成講座」、「ブラッシュアップ講座」、「国際理解講座」の 3 講座に対してでした。

また大和田さんが熱心に取り組まれた行事に 2013 年 10 月 20 日に開いた 20 周年記念行事があります。「ともに歩もう、国を超えて」のテーマを掲げ、積極的に MIFA のメンバーをリードして取り組まれました。



大和田さん(創立 30 周年記念式典にて)

町田市文化交流センター大ホールで、20 周年の式典を行い、祝辞を鷲北秀樹氏(町田市副市長、町田市文化・国際交流財団理事長)、佐々木のり氏(社会福祉法人町田市社会福祉協議会会長)よりいただきました。その後、第一部は講演会「世界の振り見て、わが振りなおす」と題して現法政大学名誉教授、元 NHK アナウンサー山本浩氏をお迎えして講演していただきました。第 2 部は大和田さんの古くからの知り合いの国内外でご活躍中のペーパーアーティスト広岡正勅氏の紙切りショーを大いに楽しみました。たくさんの方のご参加を得て充実した記念祭を開くことができました。

大和田さんは会長としての 10 年間、MIFA の活動の充実を図り、これからますます増えていく外国人とのより良い共生の在り方を考えて活動されていたと思います。長い間一緒に活動ができましたことは、うれしく深く感謝しております。

大和田さん、本当にありがとうございました。
ご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

MIFA と共に歩まれた足跡

語学部 早田 紀子

大和田さんの訃報が MIFA に届いたのは 7 月末のことでした。5 月にご病気で入院されているとお聞きしてから、あまりにも早いご逝去の報に私共は驚きと悲しみでいっぱいになりました。

振り返ると、長い年月を大和田さんと活動をご一緒にしてきました。初めてお目にかかったのは 1999 年、大和田さんが「養成講座」を受講し入会された時です。講座修了後、大和田さんは木曜夜クラスでの支援となり、私と支援曜日が違うことからお目にかかる機会はなかったのですが、2001 年頃から木曜夜クラスのコーディネータを大和田さんが務められてからは、語学部の仕事を一緒に行ってきました。当時は毎週コーディネータ会議があり、各クラスのコーディネータ 6 名の方々とは打合せや作業でお会いする機会も多く、自然と親しくなり和気あいあいと仕事をしていたと思います。

任期終了後も年に何度か食事会をしては集まりました。大和田さんはよくワインを召しあがり、熱烈な阪神ファンでいらしたことや、正月大学ラグビー決勝戦の話などで盛り上がりました。当時まだ J2 だった FC 町田ゼルビアの応援にも意気投合したメンバーと野津田競技場へ足を運ばれるほどスポーツ好きでいらっしゃいました。

大和田さんとはご自宅がご近所だったこともあり、帰り道でもよくご一緒に、MIFA の話に留まらず、ご家族の話や、お仕事の話、昔話など色々とお聞きました。新聞記者になりたかった学生時代、以前より英語の勉強を続けていらしたからか、「TIME LIFE」のカメラマンに同行し、助手兼通訳兼かばん持ちとして各国を回ったこと。そのため休みがちだった大学の単位が足りなくて卒業が危うくなり、慌てて一升瓶抱えて教授に頼みこみにいった話などは、若き日の大和田さんを彷彿させるエピソードです。

一旦企業に就職されましたが、出版社に転職されたからは、国際部の所属となり、ドイツ各地のブックフェアに教材・絵本などを出展するため長期の海外出張が多かったそうです。その後、中国の仕事に移られると、中国語の勉強を始められましたが、「これがなか

なか難しい！」とおっしゃっていました。MIFA 内でプライベートに開かれた中国語教室に積極的に参加されたのもこの経験からだったのでしょうか。海外、特にヨーロッパへの旅行の話をよくしてくださいました。「車で回るのがいいんだよ」と奥様とイタリアなどへよくいかれたそうです。

2003 年、MIFA 創立 10 周年記念行事の時、大和田さんは「創立 10 周年記念誌」の発行を手掛けられ、またその時も一緒に仕事をいたしました。やはり出版社に勤められた経験を買われての人選だったのでしょうか。原稿集めから編纂、校正など指導してくださり、印刷所での打合せにも同行させていただきました。

2004 年、役員が大幅に入れ替えられることになった時、大和田さんは語学部長に就任されました。最初に手掛けられたことは「養成講座」の見直しです。創立 10 周年記念行事でお世話になった TNVN の林川先生を講師としてお呼びしたいと提案され、TNVN の何人かの先生に講師をお願いし、現在の「養成講座」のカリキュラムができあがりました。その後、国際交流センターの「基礎講座」との一本化という案がたびたび出る中、MIFA 独自の講座を続けたいと強く希望されたのです。語学部の仕事から離れてからも、「養成講座」について気にかけてくださり、「どう？ 受講者集まった？」と声をかけてくださいました。迷ったり困ったりした時にはご意見を伺い、私が語学部の仕事を続けていく上で大変心強い支えになってくださいました。

2009 年に大和田さんは会長に就任され、その後 10 年もの長きにわたり MIFA の運営にご尽力くださったのは、ついこの間のことです。会長としていつも公平でいたいと、誰からの話しにも耳を傾け、静かに聴いてくださっていました。そして冷静かつきっぱりと判断をされる姿勢は、私達に大きな安心感と信頼感を与えてくださいました。

私の長い MIFA での活動の中、多くの場面で大和田さんとご一緒に、大和田さんと共にありました。そして今があると深く感謝しております。ありがとうございました。穏やかな笑顔、そしていつもダンディーでいらしたお姿が忘れられません。

ご葬儀では、三人のお孫様が奏でるバイオリンの調べに乗って旅立たれたと伺いました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

日本での思い出

徐さんは2022年9月に来日、昨年5月から月曜クラスで学習しています。東京科学大学（旧東工大）大学院の留学生ですが、指導教授の東京大学への移籍に伴い、昨年8月飯田橋に転居しました。それでも毎週月曜日、飯田橋からMIFAまで通って熱心に学習を続けてきました。そんな徐さんですが、この秋、晴れて大学院を卒業、中国に帰国することになりました。そこで今回、徐さんには「日本での思い出」を、支援者の長南さんには「送る言葉」を寄稿してもらいました。



徐さん（一番手前）



徐さん（右）と長南さん（左）

迷子でも進め！

月曜クラス 徐 秋臨

なんとなく、MIFAに来てからもう1年3ヶ月が経ちました。博士号取得が目の前に迫り、別れの季節も近づいています。そんな中、MIFA ニュースへの寄稿をお願いされ、様々な思いが込み上げてきました。

ちょうど三年前の秋、私は迷子でした。

異国に渡り、まったく未知の旅を始めるのは正しい選択でしょうか。深い不安がありました。最終的に「もっとアニメの聖地を巡礼したい」という気持ちが勝ち、そわそわしながらこの馴染みのない土地に足を踏み入れました。

結果として、それは最高の選択でした。

アニメやマンガだけでなく、美味しい料理（寿司、天ぷら、和菓子……）、絶妙な風景（沖縄の波から北海道の雪国まで）、独特な文学や映画、唯一無二の鉄道文化、悠久の棋道文化もあり——そのすべてに夢中にさせられました。

けれども、一番名残惜しく、永遠に忘れられないのは、やはりここで出会った人たちです。

MIFAに出会う前は、純粋な外国人視点で日本を眺めていました。けれど、MIFAの皆さんのおかげで、この国の文化を身近に感じ、日常の空気を味わうことができました。長南先生に色々な日本の伝統文化や風俗を教わり、毎回のお題発表やイベントでは植田先生、野村先生、山本先生に励まされました。福井先生、三村先生、幾野先生、安藤先生も常にそばにいて支えてくださいました。さらに、多くの支援者の先生方や学習者の皆さんの熱情と善意が、私をいつも元気づけてくれました。これらは文化や自然の風景以上に、私にとってかけがえのない宝物と心より信じています。

しかし、離別の時は近づいています。

かつては「社会人になるなんて遙か先のこと」だと思っていましたが、今は何と、目の前にあります。少しぼんやりし、三年前と同じように、また迷子になった気がします。けれど、この三年間の物語が私に教えてくれました——迷子もいいじゃないか。歩みを進めれ

ば、きっと新しい生活、美しい風景、優しい人々と出会えるのだと。
未来に向かって迷子になりながらも、時には MIFA に戻ってきたい。過去には戻れなくても、東京はいつも近い——そうですね。
迷子でもいい、迷子でも進め！

ありがとうお元気で

月曜クラス 長南 静子

「今日は立秋。自分の名前にちなんだ季節が始まりました」
これは白内障手術のため3か月ほどお休みした後、私が久し振りに出会った学習者 徐秋臨さんから届いた残暑見舞いの書き出しです。
朝のスピーチでは、いつも真っ先に手を挙げて発表していたように、何事にも積極的に取り組む、とても礼儀正しい大学院生でした。
「日本に興味をもったきっかけはアニメです。でも、日本に留学し、生活するようになってから、中国から伝来した文化を日本がとても大切に守っていることを知り、すごいと思いました」と、日本の印象を話してくれました。その声をヒントに日本文化に触れる学習を心掛けました。
奈良時代の日本人にとって中国は憧れの存在だったこと、漢詩から和歌が生まれ俳句につながったことを学び、百人一首の読みあいと俳句作りを楽しみました。

感性豊かな徐さんの俳句です。
浜暮色遠い町並み余寒かな
鈍感な強固の対価かたつむり

徐さんとの出会いで、私自身、中国に関心を持ち、新聞を読むようになり、改めて日本文化を学ぶ機会にもなりました。本当にありがとう。
いよいよ社会人として新たなスタート。いつの日か達者な日本語を生かし日中友好の架け橋になってほしいと心から願っています。



クラスの仲間と（中央が徐さんと長南さん）

日本語能力試験 合格おめでとうございます！

7月の日本語能力試験（JLPT）に以下の学習者が合格しました。

レベル	名 前	出身地	クラス
N2	ソ ジソン	韓国	土曜 B
N2	刘 越洋（リュウ エツヨウ）	中国	水曜夜
N3	周 飛（シュウ フェイ）	中国	土曜 B
N4	ダカラノ ブレイス	フィリピン	土曜 B

日本語能力試験とは

日本語能力試験（JLPT）は、留学、就職、在留資格取得などに活用される資格試験です。言語知識・読解・聴解の3分野で構成され、N1（最も難しい）からN5（最も易しい）までの5段階のレベルがあります。

- 「読む・聞く」スキルを測定します。「話す・書く」スキルは測定しません。
- 試験は年2回（7月・12月）実施されます。
- 合格には総合点と各分野の基準点を満たす必要があります。

レベル	試験科目 <試験時間>		
N1	言語知識（文字・語彙・文法）・読解 < 110 分>		聴解 < 55 分>
N2	言語知識（文字・語彙・文法）・読解 < 105 分>		聴解 < 50 分>
N3	言語知識（文字・語彙）< 30 分>	言語知識（文法）・読解 < 70 分>	聴解 < 40 分>
N4	言語知識（文字・語彙）< 25 分>	言語知識（文法）・読解 < 55 分>	聴解 < 35 分>
N5	言語知識（文字・語彙）< 20 分>	言語知識（文法）・読解 < 40 分>	聴解 < 30 分>

MIC 主催の日本語発表会、18 名が堂々発表

10月5日（日）、市民フォーラム3階ホールにて、町田国際交流センター（MIC）主催の日本語発表会が開催されました。町田日本語の会とMIFAも協力し、3団体に所属する学習者18名が、それぞれの思いを込めたスピーチを披露しました。

発表者たちは「自分の趣味」「日本での生活」「出身地の紹介」など、さまざまなテーマで日本語による発表に挑戦。会場には温かい拍手が響き渡り、聞き手の心を動かすひとときとなりました。

MIFAからは張 筱薔（ジャン シャオライ）さん（中国、火曜クラス）が発表しました。また、MICとMIFAの両方で学ぶジェフ・クリスティンさん（米国、月曜クラス）、葛 継飛（カツ ジーフエイ）さん（中国、土曜Aクラス）、陳 曦（チン キ）さん（中国、土曜Aクラス）の3名もMICの学習者として発表しました。

受付ではスタッフの一員としてMIFA語学部長の揚石久子さんが笑顔で来場者を迎え、会場の雰囲気づくりにも一役。発表後にはMIFAの黄川田会長が閉会挨拶を行い、「大勢の前で発表したことで自信がついたと思います。これからも日本語をどんどん使ってください」と、発表者たちを励ましました。

今回の発表会は、学習者にとって大きな一歩となるとともに、地域の国際交流を温かく彩るイベントとなりました。（広報部 濱田敏裕）



発表したMIFA学習者の張さん



閉会挨拶を行った黄川田会長

役員会便り

毎月の定例役員会で話し合い、報告された事についてお知らせします

7月8日	・学習者の出入りが多いです。全体での待機者はやや減少したものの、土曜は相変わらずの状態です ・現在の会員数は約 100 名ですが、教室のキャパシティを考えるとこのくらいが適正な人数と思われます ・学習希望者のうち 18 才未満の人は受け入れないということを改めて確認します ・友好部主催の秋のイベントを計画中で、神代植物園、生田緑地、小田原城などが候補にあがっています ・MIFA ニュースは印刷アップ次第各教室で配布します ・町田市社会福祉協議会ボランティアセンター（ボラセン）の今年度下期教室予約抽選申込をします。結果は 8 月 1 日に HP 上に掲載されます ・支援者養成講座は今年度の実施は見送り、来年度の早い時期に開催することを目指します ・近隣大学などの学生から調査協力依頼のメールが来ることがあります。役員だけで対応出来るアンケート、聞き取りには協力していきたいと考えていますが、学習者、一般会員に直接関わる場合や教室の見学などには応じないということで確認しました ・総会の出欠で委任状が提出されていて、議長一任の場合、当日の表決では多数意見の方に加算します
9月9日	・長く MIFA の会長を務められご尽力くださった大和田前会長が 7 月逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます ・7 月 19 日ブラッシュアップ講座は 23 名の出席で盛況でした ・11 月 15 日(土)の「スピーチ大会」の準備を進めています。発表者 12 名と司会者 2 名を募集中ですので、ご協力お願いいたします ・HP にアクセスしてくる学習希望者への対応を改善したいと考えます。希望者が各教室に直接行って申し込むという現状は、コーディネータへの負担が多いと思われるためです。メールでの申込段階で、より詳細な情報を得ることによって面接の準備もしやすくなります ・新年度会員数が確定しましたので名簿を作成し、役員に配信しました ・町田国際交流センター(MIC)、ボラセン、東京日本語ボランティアネットワーク(TNVN)など関係団体への年会費を払い込みました ・ボラセン下期教室の抽選結果が出ましたので、それに続けて本申込を済ませました ・せりがや会館は来年度を以って閉鎖、利用はそれに先立つ 2026 年 12 月までとなりますので、MIFA としては対応策を考えなければなりません ・友好部の秋のイベントは 10 月 26 日(日)深大寺バラ園とし、参加者を募集中です。現地集合、交通費は各自負担、学習者と家族、及び支援者の入園料は MIFA が負担します ・養成講座の講師を長くお願いしてきた山形美保子先生が次回以降は辞退したいとの意向を示されました。今後どのように養成講座を開催するか大きな問題です
10月14日	・MIC 経由で町田市立小山田小学校「国際理解授業」への講師派遣依頼がありました。12 月 1 日(月)午後、6 年生を対象にするもので 2, 3 名の学習者を出身国が偏らないように選出中です ・MIC 主催「日本語発表会」が 10 月 5 日(日)開催され、MIFA から 1 名が参加しました ・10 月 8 日(水)MIC、町田日本語の会、MIFA による「三者会議」に出席し、各団体の状況を報告しました ・養成講座を来年度以降どのように開催するかについて早めに考えるための準備対策会議を持つようにします ・MIFA 会員の PC 利用状況を把握するための調査を来年年明けに実施します

状 況 表 2025.10.28 現在

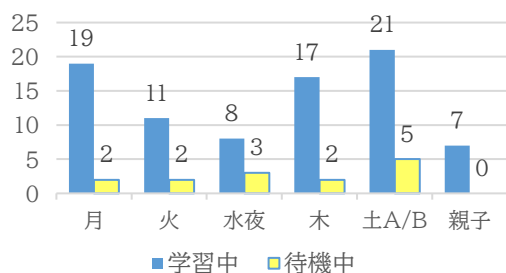
◆学習者数

学習中	83
待機	14
合計	97

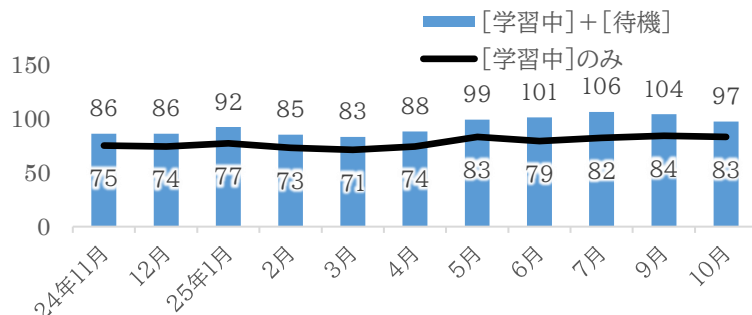
◆支援者

支援中	79
待機	5
休止	25
合計	109

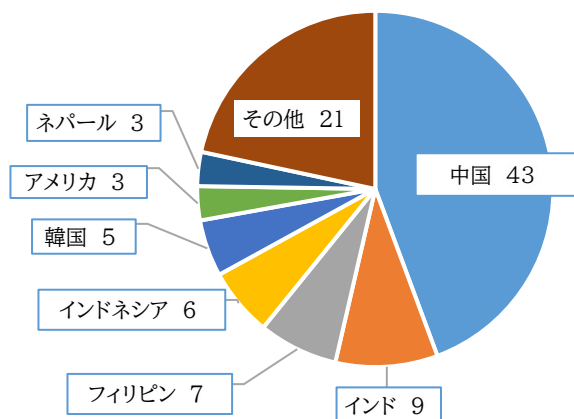
◆クラス別学習者数



◆学習者数の推移



◆学習者出身国（待機者を含む）



その他（21名）の内訳

- ・シリア、ドイツ、バングラデシュ が 各 2 名
- ・アフガニスタン、アルジェリア、アルゼンチン、イギリス、オーストラリア、ガーナ、コスタリカ、スリランカ、チリ、ナイジェリア、ベトナム、ベナン、ベラルーシ、香港、南アフリカ が 各 1 名

今 後 の 予 定

- 12月 9日(火) 13:30～15:30 役員会 町田市民フォーラム 4階 活動室 A
- 1月 13日(火) 13:30～15:30 役員会 セリがや会館 3階 大会議室
- 2月 10日(火) 13:30～15:30 役員会 町田市民フォーラム 4階 講習室
- 3月 7日(土) 13:15～16:30 春の集い 町田市文化交流センター5F けやき東・西
- ※ MIFA 関係者のみ入場できます
- 3月 10日(火) 13:30～15:30 役員会 セリがや会館 3階 大会議室

12月26日(金)～1月4日(日) MIFA 冬休み

掲載文及び写真の権利は MIFA に属しますので、許可なく転用することをお断りします

[編集委員]

濱田敏裕 池田晴美 立石滋子

MIFA ニュース No.156

発行日: 2025 年 11 月 21 日

e-mail: mifa_machida@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://mifa-machida.info/>

